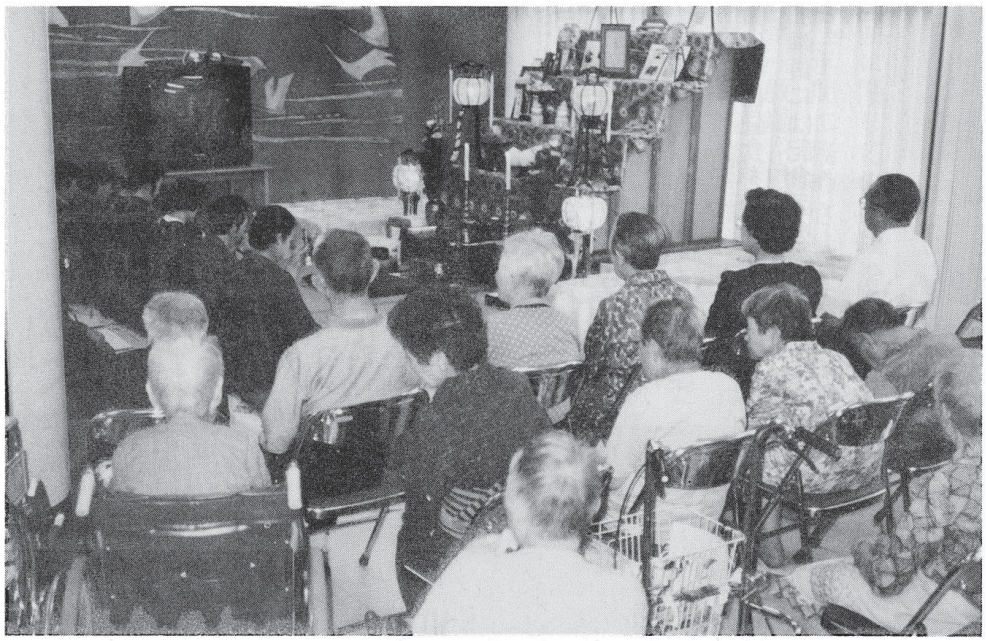
平成3年7月1日
第 4 号
題　字　大館市宗福寺住職 加藤信三老師御染筆
発行所　北秋田郡森吉町本城 浄福寺内 秋田県梅花流師範会事務局
発行者　亀谷健樹
編集者　(広報部) 柴田弘一・保坂春聴
印刷所　秋田県北秋田郡森吉町米内沢 武石印刷☎0186-72-3319

老人ホーム 奉詠

教え 励まされて

秋田市 添川



私のお寺から歩いて二十分も行くと、高台に特別養護老人ホーム「光峰苑」があります。ここには介護の必要な六十五歳以上の人々が入居しているのですが、大変良心的な施設という感じがします。森林に囲まれ、下には水田が広がりとても良い環境にあります。

この「光峰苑」では、八月のお盆に、一年間の物故者の供養が行なわれます。当初は住職が一人で供養をしておりましたが、四年前からは、梅花講員も住職のおともで供養をさせて頂いております。

その日、苑内の広場に祭壇が飾られ、物故者の位牌が安置され、まわりに入居者が作った燈ろうが飾られます（その燈ろうは、その日の夜に川に流します）。遺族の方も沢山来られ、入居者（重病人以外）、職員全員が参列してのご供養となります。

祭壇の前に座った時、講員一同の顔はひきしまり、厳粛な気持ちになります。三宝御和讃、盂蘭盆供養御和讃、無常御和讃のお唱えの頃には、すすり泣く声で私達もおもわず声が途切れてしまい……。

唱え終えると「来年も来て下さい！」と身体の不自由な入居者に握手をもとめられると、胸が熱くなります。

この行事があるので、日頃の練習にも熱が入ります。そして合わせることの大切さを、口で言わなくとも講員皆が感じとり、自然と和讃らしく唱えるようになりました。

尊い御縁でお寺に住わせていただき、共に学ぶ仲間にも恵まれまして大変にありがたく思っております。

梅花流詠讃歌は仏讃歌ですが、法具をもたない仏讃歌も皆さんと学ぶ機会があってもよいのではないかと思います。コーラス風仏讃歌と梅花流詠讃歌の音楽会を開いたらさぞステキなものに……。

そんな難しいことはさておき、私自身、檀信徒の方々と共に梅花を学んでいる時間が大変楽しいのです。乗福寺の講員の最年長者は八十六歳です。私はその方の学ぶ姿勢に教えられ励まされて法具を解きます。

秋田市　乗福寺寺族　中泉　幸

これでいいとは思いませんが　これしかできない　わたしには

秋田県梅花流奉詠大会

中央・県南
日時　八月二十五日(日)　午前十時より
会場　大内町農業環境改善センター
参加費　一、〇〇〇円（一人）

県北
日時　九月八日(日)　午前十時より
会場　二ツ井町勤労者体育センター
参加費　一、〇〇〇円（一人）

※講員は各自昼食を御持参下さい。
※参加講員には記念品を差し上げます。

特派講習会

特派師範　田沢豊彦師
（北海道・瑞苗寺）

月日	会場	電話
6.30	鏡得寺 鹿角市小坂町小坂32	0186-29-2234
7.1	長徳寺 山本郡二ツ井町富根	0185-75-2027
2	安宗寺 能代市河戸川	0185-52-4603
3	乗江院 南秋田郡井川町黒坪	0188-74-2259
4	福昌寺 北秋田郡上小阿仁	0186-77-2750
5	本宮寺 大館市本宮	0186-49-5173
6	永安寺 北秋田郡鷹巣町坊沢	0186-62-1630
14	宗泉寺 男鹿市脇本浦田	0185-25-3444
15	乗福寺 秋田市添川	0188-68-2029
16	コミュニティセンター 雄勝郡羽後町本町	0183-62-1128
17	福城寺 仙北郡協和町峰吉川	0188-95-2104
18	東源寺 仙北郡田沢湖町	0187-43-0097
19	恵林寺 本荘市内黒瀬	0184-22-1060
20	瑞光寺 由利郡由利町町村	0184-53-3211
21	雲昌寺 由利郡象潟町小砂川	0186-46-2223

宗侶寺族

7.7	太平寺 北秋田郡合川町上杉	0186-78-2344
7.22	禅センター 秋田市泉三嶽根	0188-68-6871

禅センター

秋田市泉三嶽根15―18
（平和公園入口）
☎0188―68―6871

一般者梅花講習会

月日	講師
7月6日	細谷裕昌（善徳寺）
9月7日	近藤俊貞（円通寺）
10月5日	渡辺紫山（松庵寺）
11月2日	荒川高明（龍江寺）
12月7日	奥山芳寿（浄福寺）
平成4年 2月1日	本間俊英（恵林寺）
3月7日	保坂春聴（新田寺）

※時間は
午後1時～4時まで
※初心者大歓迎
（法具貸します）

禅センター
宗侶・寺族梅花研修

月日	講師
9月18日	佐藤広俊師（本宮寺）
11月20日	岩館祖芳師（恩徳寺）
2月19日	佐々木禅壹師（徳昌寺）

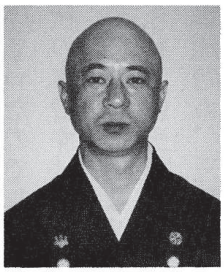
※時間
10時30分～15時30分まで
※昼食は御自参下さい。

新・梅花主事

北秋田郡合川町
正法院住職
清水忠道

―特派巡回報告―

奉詠の心



能代市
玉鳳院徒
柳川浩二

特派巡回に関しての寄稿を命ぜられ、改めて過去三年間に務めさせて頂いた四県五宗務所五十一教場を思い返してみた。巡回後、宗務庁へ報告書を提出しなければならないので備忘の為ノートしておくのだが、それなどへ目を通してみると、教場風景やお会いした方々の顔まで思い浮かんで来る。

無我夢中という言葉があるが、無我ならいざ知らず、無中だけだった初年度の広島県。今思いやってみても汗顔物である。後日梅花主事老師より苦言を頂けた為、今日あるを思うと、先達の老婆心に心より謝意を申し上げると共に、出会いの尊さを噛締めるものであります。

どうしても特派師範という肩書きに力が入り過ぎ、梅花詠道の何たるかを置き去りにした、私個人の一人歩きを大いに反省させられた一年生であった。

しかし、お陰様で機会を頂き、回を重ね、大勢の講員さん達と巡り合い、感じた事は、在講年数が長い、教階が上級・節廻しが上手といった人達のお唱えが必ずしも有難さとなって胸を打つものではない、という事を思い知らされたことだった。何と言ってもそこに道心が備わらずして……。

梅花に出会ってまだ日の浅い自分ではあるが、私にとっての梅花とは、我執を少しでも減らす修行だと思っている。その為に師に付いて繰返し練習を重ね、他人様の前で己をさらけ出しては欠点を修正して頂き〝自分では良と思っていたのだが本来はこうあるべきであったのか〟と納得させて頂く、「自覚覚他」の行に他ならないのではなかろうか。その様に考えているので、技術的に優れて来ると、それに溺れがちになり、奉詠の心が希薄になってくるのではと思ったりする。

所で昨年の十月、新潟県第一宗務所管内を巡回させて戴き、出雲崎町に教場を頂いた時の事であるが、朝窓外に目をやると、海上に佐渡が横たわっていて、思わず『良寛さま』の「――波間にうかぶ佐渡が島」と一節を口遊んでいた。開講式を終え、講習に入り、「皆さん〝良寛さま〟はもう勉強なさいましたか」と聞くと全員が「まだ」という事なので、それではとお唱えを始めたら、みんな後からついて来る。「習わないのにどうして」と聞くと、良寛記念館でテープを流しているし、これは子供でも覚えていると言われ愕然！まさに御当地ソングであったのだ。そして数回練習の後全曲お唱えして頂いたら、決して上手くはないのだが、何とも言えない、真似の出来ないものとなった。

御当地の人達の、良寛様への思い入れの濃さが、お唱えとなって表現されたとしか言いようのない「良寛さま」、拝聴させて頂く事が出来た。

『紫雲』は助教の検定種目でもあるので十数年前に覚えた曲なのだが、今だに納得の行くお唱えが出来ずにいる。（こう言うと他は良さそうに聞こえるので特にと言った方が正しい）。そこで考える事は、高祖様が申されている『――南無釈迦牟尼仏あわれみたまえ』という御心の深さが分からず、又私にはそれほどの信仰心がないからなのではと思う。でもこうやって梅花講に籍を置かせて頂き、お唱えを続けさせて頂いている限り、きっといつかはと念じておりますので、皆様からの御指導切に御願い申し上げる次第であります。

菩提樹

シリーズ おらほの梅花講

海蔵寺

所在　能代市鶴形二三九(第九教区)
設立　昭和五十七年六月七日
講長　伊藤良弘
講員数　六十三名

本山安居という仏道修行の一過程を経て、師僧寺へ帰ってはみたものの、なんともリズムの摑めない副住職ならではの空虚感があった。

そんな時「方丈さん、おらほの寺でも御詠歌でぎねもんだがや」と篤心の一居士に声をかけられ、知らず知らずの内に腰を上げていたのでした。(――昭和五十六年、秋の事です。――)

以来、今日まで、なんだかんだ言いながらも、月三回の定例日。そして、正月二日奉詠始め、三日間にわたる寒修行、春のお涅槃、花祭り、夏お盆の施食会、秋の寺内奉詠大会の年間行事をはじめ、各種奉詠大会、研修はむろんの事、先住大和尚の密葬、本葬、拙僧の晋山・結制。果ては、西国三十三番札所巡り(昭和五十九年～六十一年)、四国八十八番札所巡り(昭和六十三年～平成一年)、恐山研修旅行(平成二年)などというように、海蔵寺流梅花道を歩んできたような気がします。

このところ、雑事にかまけて、なかなか出席できず、心苦しく慙愧に耐えないのでありますが、ハッキリいって、おらほの梅花講は元気があって、たまにはまいってしまう事もあるが、素朴な人間性あふれる、実に気持ちのいい講です。

そして、私にとっては参禅会同様、寺院運営の大きな心の支えであります。世相の反映するように、価値観の多様化に個々人の存在が重視される今、自らの仏行から、菩提寺とのつながりをとらえる姿は、責任ある立場の私どもへの一石を投じているまたの姿と言っても過言でないと思います。

耳にしたところでは、今秋予定している先住忌にあわせて、観音立像建立の計画をしているという事です。本当に頭が下がります。

単なる気安めでなく、仏道の安心を、少しでも味わってもらうために、益々精進し尽力しなければならないと痛感します。

願わくは、方便としての検定を踏み外さずに、和合を第一に掲げ、はつらつとした明るさに生きがいを感じれるような、そんな梅花道を共に求めていきたいと思います。

紹介者　講長　伊藤良弘

広島市平和公園にて

蒼龍寺

所在　秋田市土崎港中央一ノ一九ノ一二(第一教区)
設立　昭和四十四年九月
講長　佐藤修全
講員　十九名

昭和四十四年、講員八名(他檀家の方々を含めて)秋田市で始めて梅花講らしき講

が始められました。指導は相川寺住職丹生先生が蒼龍寺にお出でになって月一回の受講、冬の雪のあるうちは我流で練習したりの数年間、又講員も高令化と共に出入りもはげしく、十五、六名にもなった時もあったが、初代の会長も亡くなられ、七・八名で過ごして来ました。

昭和五十七年北海道から特派師範が当寺へおいでになると云う機に、新たに講員をつのられ、隣寺の檀信徒五名、当寺五名で入会、この時の講師のご指導は「水子地蔵御和讃」でした。教典も法具もなくコピーした紙一枚渡され膝を打ちながらのご指導でしたが、このご和讃の文句のあわれさ、すばらしさについ涙ぐませられました。

そして九月、あらためて教典法具を渡され、この一年生を東泉寺の柴田先生が受持たれ、手とり足とり法具のとき方からお作法からご指導いただきました。先輩諸姉は以前と同じ丹生先生が日を違えてご指導をいただいておりました。只お寺の行事等の時は一諸になって蒼龍寺梅花講として奉詠したり、大会、検定会等に参加していましたが、数年して相川寺丹生先生が本山の役寮になられたので、先輩の方々と共に柴田先生のご指導いただくことになりました。

毎年八月二十日土崎被爆者慰霊「灯ろう流し」の時には隣寺嶺梅院講員共々、港の「灯ろう流し」会場で詠讃歌の奉詠をさせていただいております。昨年はＡＢＳテレビで生放送されました。

又、日本海中部地震の津波でなくなった合川南小学校の児童の慰霊の為にと男鹿市加茂青砂海岸へ出向いて詠讃歌をお唱えして来たこともありました。

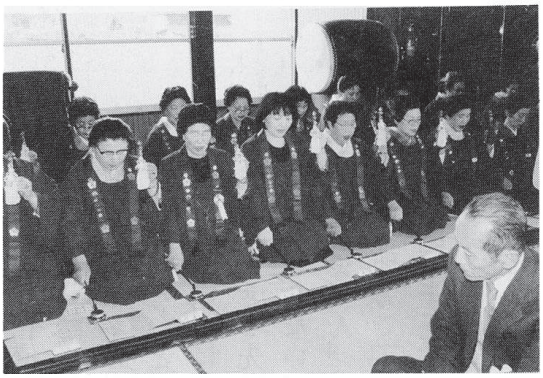
こうして講員は少ないながら春秋の彼岸三回づつ、四月のおねはん会、六月の地蔵祭（蒼龍寺に大きなお地蔵様が別棟にまつられている）、成道会等お寺の行事には必ずつたないながら詠讃歌の奉詠をさせていただいています。

昨年から我が講に田沢湖町から特急列車で毎度通って来られる講員が入られました。

又、ご子息が僧籍につかれたとかで是非詠讃歌を習得したいと和田から通って講員になられた方もあり、先輩講員も新米講員も大いにはげまされ、おかげ様で昨年先輩講員の中から四人も白ふさの方が出ました。

大変名誉な事と共に、後輩の私達も尚一層精出して詠唱に励んで参りたいと存じます。

紹介者　講員　成田喜代子



法要に参列しての奉詠

〝あったかプレゼント〟が好評

駅の待合室のいすに座るときの冷たさを座布団で和らげて下さいと、二月八日に羽後本荘駅に〝あったかプレゼント〟三十四枚が届けられた。

送り主は、「いくらかでも社会の為に役立ちたい」と社会奉仕活動を続けている蒼龍寺梅花講のグループで、代表の二人より小野羽後本荘駅長に手渡されました。

この座布団は、不用になったマットレスや布団等の中から再利用して作られる。色もカラフルで、駅の利用者に好評とのこと。

昨年には、地元の土崎駅にも贈っている。

平成3年2月8日　本荘駅

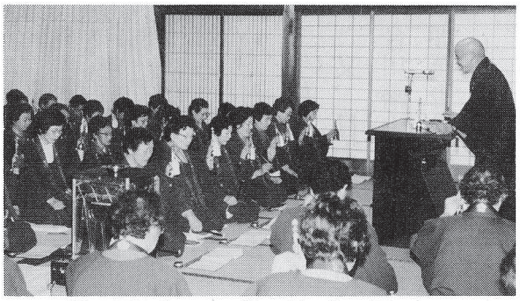
秋田の梅花流 Ⅲ

比内町　全応寺住職　佐藤仁鳳

前の号に、梅花流詠讃歌は「至心詠唱」の一語に盡きますと、書きましたが詠讃歌を覚えたいと唱えたいと云う求める心と、その求めに応じて手ほどきして下さる先達が、おらなければならない事は申すまでも有りません。私も小僧時代から当地方で「ふだらく」と云う西国三十三番の御詠歌を習え覚えて唱えておりますが、正規の教典が有るでなし音の高低、柏の長短など余り気にもかけずに達者な古老の後について唱え覚えました。

梅花との出会いは、昭和二十九年に大館市の宗福寺様に野村師範が来られた時が初めてでした。梅花譜、オタマ杓子の楽譜も余り読めず、又1 2 3 4の略譜号も勉強不充分な者が、一ノ一一（前の譜は今のと位置関係が違う）と云われても中に合点がゆかず戸惑いました。野村師範「○や△を基点として右の印は中音、上は高音、下又は左は低音と覚えて下さい。長い印は声を長く、短いのは短く、これを拍と云います。初めに私が唱えて見ます、良く聞いて下さい。聞く事が、上手にお唱え出来る第一歩です」と。只々聞き見ておるだけです。

「ハイ皆さんご一緒にこころのと始められ唱える事四・五回、唱えておる中に音の高低、拍の長短は自然に会得出来ます、唱え込みが一番大事な事ですね」と云われて唱え初めて三十八年、未だに勉強中です。



講習中の佐藤仁鳳師

いつの間にやら新曲の教典を手にして、この様な節かなと口ずさむ様になりました、有難いことです。

野村師範とは其の後も講習会で御指導を受け「レコーダお持ちですか良かったら録音したテープを上げますよ」と云われ、ソニー製のレコーダを購入、テープを送って頂いたり、録音して貰ったりで大変勉強になりました。

型が大きく重いレコーダを背に、阿仁部の講習に出た折唱えて頂いてすぐ再生、講員さんの喜ぶ様子が目の奥耳の奥に今も残っております。講習が終って翌朝雪の中器械を背に駅まで歩いた事が想い出されます。昭和三十四、五年頃の話です。

又、その頃、山形庄内の地方大会が余目の体育館にて開催され、単身器械を持って参加、七インチテープに大会の模様を録音その後の講習会の時、再生一同感心しながら聞きました。それもこれもみな血となり肉となって今日が有るのだとおもえます。今でも山形庄内地方（ヤマサン）は梅花の盛んな所です。

梅花発足四・五年は鉦敷が正規に定められて居らず、紫地の布十センチ角位のものを使用しましょうと云う事で各自が作ったのでした。中には綿を入れてふっくらと作る方も有って、講習会の時、中央から見られた講師さんから「秋田は寒いので鉦の足が凍傷にならないように綿が入っておりますね」と云われて一同大笑いした事も今は昔話となりました。

何回となく講習に行った、お寺でその頃幼稚園児であった、お小僧さんが今では立派な若手師範で活躍しておられます。

私も梅花を始めてから沢山の宗侶、寺族、一般講員の方々とご因縁を結ばせて頂き、日々を大切に詠道三味に過ごさせて頂いております。来年は梅花発足四十周年になります。現在梅花流にお励みの皆さんは勿論未だご困縁の結ばれないお方もご信心をお運び頂いて、梅花を通じて高祖様太祖様のお示しを体得したいものでございます。

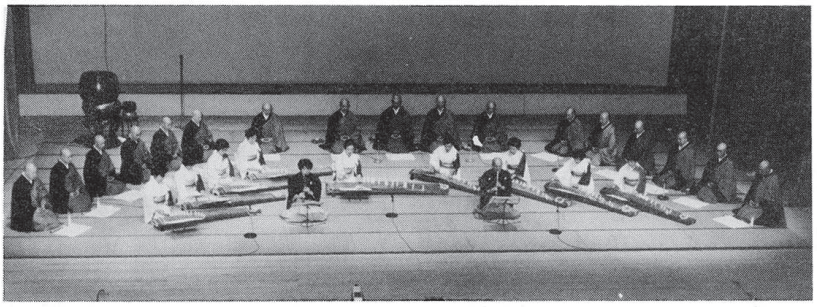
第4回「心のハーモニー」公演に感激

第四回「心のハーモニー」の公演に感激「禅の友」を愛読している私は、ある日「梅花にまなぶ」修証義御和讃、を読んで御詠讃のメロディを知りたいと思った。

「ふりにし世世の罪咎は
深雪のごとくふかくとも　悔
ゆる心の朝日には　消えて跡
なくなりぬべし」七五調の文
の中に私の名前があって親し
みを感じ、又後悔多い自分に
似て好きな歌詞である。よう
やく機会に恵まれ、素晴らし
い公演を観ることが出来て、
感動の思いが今も続いている。

昨年十一月十日、本荘市文化会館は禅を愛する沢山の人達が集まり、和尚様にご挨拶する方や、久々の出会いを歓び合う和やかな雰囲気に包まれていた。ビデオカメラが並び、女性カメラマンらしい人も、忙しそうに動き始めたころ、場内が暗くなり舞台は絵のように並んだ法衣姿の和尚様が正座していた。左手に白く光ってみえた鈴の可憐さが印象的であった。「賽の河原の地蔵和讃」が始まると、忘れていたあの世のあることを思い出し、亡き父母に逢いたいと思った。

「一重組んでは父のため、二重組んでは母のため」と梅花流師範の和尚様達の美声は、尺八の伴奏に調和し独得な節回しが優しいムードを醸し出していた。



突如、琵琶奏者の田原順子先生の弾き語りが始まり「地獄の鬼があらわれて、やれ汝等は何をする」と鬼の恐ろしさを見事に表現、その名調子に見とれるばかりであった。

「修証義公布百周年記念」の法話が始まり、今一瞬の尊さ、今を大切に生きるように、と穏やかな和尚様の話し方に心和む安らかさを感じていた。坐禅のご指導も頂き、客席の人達は姿勢を正し瞑目の静寂な時が流れた。

今から百五十年前の大飢饉の時、我が身を削って子供を守った母親の愛情物語は、現代では想像もつかず、時には日本の過去を思い、恵まれた今を感謝したいものである。

御詠歌が又静かに始まり、デリケートな旋律のところが素適で他にはないメロディと感動していた。

公演会にはスターにあこがれる心理があり、私は「ファンの一人になりたい」と思いながらいつまでも座席を動きたくなかった。「夜もすがら　終日になす　法の道　皆此経の声と心と」道元禅師様のこの歌の意味を考えながら帰路についた時、現実の今を力強く歩き出していた。

有意義だった一日に感謝している。

秋田市
駒木根　深雪

みなさんの
○御意見　○御感想
○体験談　○詩
○短　歌　○俳　句
○カット　○その他　を編集部へ
〒010-01
秋田市金足岩瀬　東泉寺内
同行編集部

こころをよむ (三)

帰依三宝「三宝御和讃」

三宝御和讃は梅花を始められて一番最初に練習された曲ではないかと思います。それだけに講員の皆さんは空で唱えられる程親しみやすい曲です。しかし実は仏法僧の三宝に帰依するという私ども仏教徒にとって最も大切で基本的なことをこの一曲で示されております。即ち、南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧と必ず口に唱え、身につとめ、心に念じて一筋の道に生きるという帰依三宝の「おいわれ」を讃えたおうたが三宝御和讃なのです。三宝とは「仏・法・僧」を三つの宝と尊称したお言葉です。

仏とはここではお釈迦さまのこと。大宇宙の真理を極められ、覚者となられて、多くの人々にその尊い教えを説かれたお方でありますから、仏陀と申し上げ仏と敬い申し上げるのです。

法とはそのお釈迦さまのみ教えのこと。それをまとめられたのが今日私どもが読誦しております「経典」であります。

僧とはそのみ教えを今日までお伝え下さった代々のお祖師さま方や、み教えを共に学び実践する僧伽（教団）のことです。

この「仏・法・僧」の三宝があって、そのみ教えを今日、私どもの耳に聞き、眼に見ることができるのです。帰依三宝の由縁です。

一、心の闇を照します

いとも尊きみ仏の
誓願をねごうものはみな
南無帰依仏と唱えよや

人は誰にでも迷いや煩悩があります。それを心の闇にたとえております。心の闇を照し給うのが、尊いみ仏の教え、即ちみ光です。み仏の誓願です。み仏にはたくさんの誓願がありますが、四弘誓願文もその一つです。自らを律し、反省して精進し、他の人も仏さまの理想の暮らし方ができるようにという無上の誓願がみ仏のお命です。

この誓願を信じ、そのお救いを願うものは誰でも皆、心から「南無帰依仏」とお唱えいたしましょう。

二、憂き世の波を乗り越えて

浄きめぐみにゆく法の
船に棹さすものはみな
南無帰依法と唱えよや

人には思うまゝにならないで苦しむことがよくあり、それが日々の現実です。憂き事の多い世の中、つまり憂き世です。憂き世を波にたとえております。苦しみ、悩み不安に満ちた人生の荒波を乗り越えて行くには、み仏の教えという船に乗らなければなりませんが、この船に乗り、苦海をのり越えようと願うものはみな、南無帰依法と唱えようではありませんか。

三、悟りの岸にわたるべき

道を伝えしもろもろの
ひじりに頼るものはみな
南無帰依僧と唱えよや

悟りの岸というのは、悟りということを向う岸、彼の岸にたとえております。ひじりというのはここでは聖僧または高僧、お釈迦様のみ教えを伝えてこられた歴代のお祖師さま方や、お取次下さる方々のこと。

この向う岸に渡る道（仏のみ教え）を伝えられた多くのお祖師さま方に頼り、そのみ教えや道を学んで実践しようとするものは皆、南無帰依僧とお唱えして下さい。

以上が大意ですが、大事なことは清浄な心、浄信をもってお唱えすることです。それには先ず姿勢を整え、作法通り正しく合掌礼拝することです。身の整えがともなって、はじめて心の清浄が現成し、お唱えが自然に浄信の世界、帰依そのものになり切ってしまうのです。

大館市　温泉寺住職　佐藤舜英

秋田県梅花流師範会
半年を振り返り
事務局報告

◎梅花講員一泊研修会

昨年も梅花講員一泊研修会が県北で例年同様、合川町の太平寺様と、二ツ井町の梅林寺様の二会場で行なわれた。

県北全域を参加対象とし、十一月十三日～十四日は太平寺様で中教導以上を、十一月二十日～二十一日は梅林寺様で権中教導以下の講員を対象に行なわれ、両会場の参加者は合わせて一八〇名だった。

第一日目は、午前十時の開講式から午後九時半の消灯まで、講話、全体講習、分科会、晩課、夜坐と、時間割がぎっしり。

第二日目は、午前五時半の振鈴（起床）暁天坐禅、朝課に始まり、午後四時の解散まで、一言も逃がすまいと真剣そのもの。

特に今回は十月二十七日に発表された新曲「修証義御詠歌」（伝心）の講習をもうけ、参加者は一早く修得されて皆満足そう。

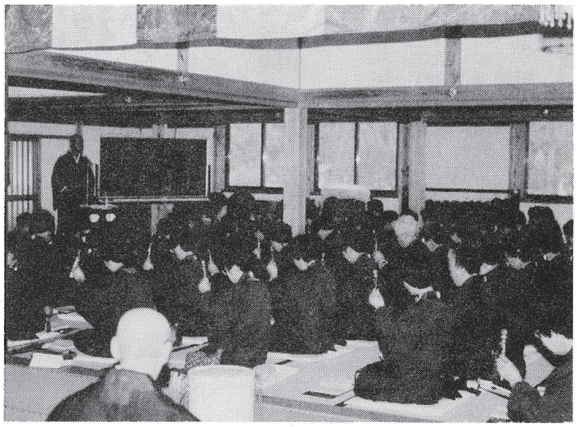
分科会では、教階毎に各講師より懇切丁寧な指導を受け、それぞれみっちりと研鑽された。

両会場共、朝昼晩の食事は、梅花講員による心づくしの手料理、これまた一味違う当研修会の特色の一つである。

参加講二十七ケ寺中、鷹巣町坊沢の永安寺様より二十四名の参加者が一番多く、次いで大館市の宗福寺様より十五名、二ツ井町の清徳寺様より十四名だった。

詠唱だけでは無く、一番大事な信心を養う意義有る一泊二日の研修会、今年は第十回目を記念し、今計画中であります。

案内有りました時は是非お申し込みを。



修証義御詠歌（伝心）の講習

◎検定委員会

八月二十一日、秋田市金足の東泉寺様を会場に検定委員会を開き、検定について色々と打ち合わせ検討し、各検定会に望む。

三年一月十七日、飯田川町の八郎潟ハイツに於いて検定委員の研修会を行なう。先ず佐藤広俊師、本間俊英師の両師範より、検定についての問題提起してもらう。其の後、検定委員の中から三名受検者に扮し、検定の実演をもって採点方法を研修する。

◎梅花主事歓迎送迎会

昨年の暮、宗務所梅花主事老師の交代が有り、検定委員会でもって、一月十七日、八郎潟ハイツを会場に歓送迎会を行なう。

前梅花主事、二ツ井町の梅林寺御老師様の永年にわたっての労をねぎらうと共に、新梅花主事、合川町鎌沢の正法院御老師様の今後の御活躍を期待し会を催す。

事務局長　奥山芳寿

梅花講員一泊研修会

特設検定会

○県南　中央地区
日時　八月二十九日(木)　九時受付
会場　秋田市　秋田温泉「さとみ」

○大館・鹿角・北秋田地区
日時　九月十四日(土)　九時受付
会場　大館市「北秋クラブ」

○能代山本・阿仁地区
日時　九月二十日(金)　九時受付
会場　二ツ井町「ヘルスセンター」

・受検種目を間違えないこと。
・教階により曲目が決まっているので「替節」も出来るようにして下さい。
・権正教導（二回目）以上は「詠題」
　権中教導（四回目）以上は「立行」
　が出来るようにして下さい。
・受検料　一、五〇〇円(一人)

秋田県梅花流師範会役員

	氏名	寺院名		担当
会長	亀谷　健樹	太平寺	住	
副会長	佐藤　仁鳳	全応寺	住	
〃	柴田　弘一	東泉寺	住	広報部
顧問	加藤　信三	宗福寺	東	
〃	丹生　純雄	相川寺	住	
監事	佐藤　道機	泉流寺	東	
〃	荒川　高明	龍江寺	住	
幹事	岩館　祖芳	恩徳寺	副	研修部(宗・寺)
〃	佐藤　舜英	温泉寺	住	〃 (一般)
〃	佐藤　広俊	本宮寺	住	〃 (検定)
〃	佐々木禅壱	徳昌寺	副	奉詠大会
〃	柳川　浩二	玉鳳院	副	〃
〃	鈴木　道雄	自性院	住	研修部(一般)
〃	須藤　知俊	円通寺	住	〃 (検定)
〃	近藤　俊貞	円通寺	住	〃 (地区)
〃	本間　俊英	恵林寺	住	奉詠大会
〃	伊藤　道嗣	竜巌寺	住	研修部(地区)
〃	矢萩　綾	慶祥寺	寺族	〃 (宗・寺)
〃	茂林　愛子	鳳来院	寺族	〃 (〃)
〃	三浦　昌彦	鱗勝院	副	〃 (地区)
〃	武田　俊英	松源院	副	〃 (〃)
〃	佐々木賢龍	耕田寺	住	〃 (〃)
〃	金沢　一弘	吉祥院	副	〃 (〃)
〃	佐藤　俊晃	龍泉寺	住	〃 (〃)
会計	保坂　春聴	新田寺	住	広報部
事務局長	奥山　芳寿	浄福寺	住	

平成3年3月5日 改選

編集後記

▽一九九年振りに大噴火を起こした長崎県雲仙岳の火山活動は、一向に衰えを見せず、ふもとの島原市などでは、警戒避難地域が拡大しており、依然として火砕流や地震、噴石による被害が続出している。

見とおしの立たぬ自然活動への対応。住民の不安と緊張、身心の疲労は、その極に達しておるという。私たちの想像を絶する状態であろう。

もどかしさを感じつつも、ものとこころで見舞ってあげたい。

▽宗務所〝禅センター〟が実働し始めました。第二面に予定表を記しましたので、おさそい合わせて是非ご参加下さい。

▽梅花をはじめる方が、この頃増えて来たとのうれしいニュース。

〝仏教音楽を覚えたい〟〝心の支えとして〟〝生涯教育と心得て〟〝供養のために〟等々、動機はさまざまです。

〝こころはかたちを求め、かたちはこころをすすめる〟の指導を得て、楽しみながら、永くつづけてほしいと念じます。

KS記